

NOBU LAB.

CONCERT CARAVAN

2022

ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022

6/12-KANAGAWA

7/3-TOKYO

9/23-TOCHIGI



ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022

この度は、ご来場いただきまして、誠にありがとうございます。「ノブラボ」は、新型コロナウイルスの影響により公演中止や延期の連絡が続いた2020年2月末、私の中にあるアイディアや興味のあることを基に、ライフワークとなる活動を立ち上げようとスタートさせたコンサート・プロジェクトです。

プロジェクトは、様々な分野のアーティストや専門家をゲストに迎え、その分野の魅力を紹介することはもちろん、その分野との関わりによって新鮮で、より魅力的な可能性を邦楽に生み出し、社会の中で邦楽がどの様な関わりを築けるのか試みる取り組みでもあります。その上で、今年は故郷・栃木を含めた神奈川、東京の3都市をめぐる「ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022」と題してツアーを開催することとなりました。

元来、「キャラバン」とは、砂漠を行く一団や幌馬車といった意味を持つ言葉ですが、そのかつてのキャラバンがもたらした文化的な交流や融合に着目し、この「ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022」では邦楽、現代音楽、クラシック、ダンスといったジャンルの垣根を越えた共演、子供たちやその家族の来場、文化施設の環境やその建築を訪ねる経験も含めた総合的な感性の交流と融合を目的としています。

私たち邦楽家にとって専門分野を超えた交流と融合は、めまぐるしく動いている社会の中で、次の世代に残したい新たな舞台芸術をつくり出す重要な取り組みです。

今回の公演に際して、快く出演をお引き受けくださった音楽ワークショップ・アーティスト「おとみっく」の坂本夏樹さん、桜井しおりさん、テノール歌手の北嶋信也さん、コンテンポラリーダンサーで振付家の小林啓子さん、箏曲家の前川智世さん、尺八演奏家の福田智久山さん、そして、箏に新たな息吹を込めてくださった作曲家の溝入敬三さん、ユハ T.コスキネンさん、名倉明子さん、プロジェクトの趣旨を体現するべく魅力的な印刷物を制作してくださったデザイナーの小田善久さん、写真家のHal Poodleさん、後援のお力添えをくださったフィンランド大使館、東海大学教養学部芸術学科音楽学課程、日本・フィンランド新音楽協会、宇都宮市教育委員会の皆さんに、心より御礼を申し上げます。

吉澤延隆箏曲研究所
代表 吉澤 延隆

吉澤延隆(箏・十七絃箏・二十絃箏)

吉澤延隆箏曲研究所代表。2007年 東海大学大学院芸術学研究科修士課程修了。これまでに第15回賢順記念全国箏曲コンクール第1位・賢順賞、宇都宮市より「うつのみや市民賞」、第10回「宇都宮エスペール賞」を受賞。13年 CD「KOTO Nobutaka Yoshizawa」をリリース。16年より栃木県「とちぎ未来大使」に就任。21年より、異なる分野のアーティストや専門家をつなぐコンサート・プロジェクト「NOBU-LAB.」(ノブラボ)をスタート。また近年ではコンサート活動に加え、東京文化会館ワークショップ・リーダーとして未就学児やその家族などに対するワークショップ活動も行っている。

現在、東海大学教養学部芸術学科非常勤講師、滋賀県立文化産業交流会館「邦楽専門実演家養成事業」講師。毎月28日は、ニュースレター「koto-nobu-log.」をウェブ発刊中!

Kanagawa | 2022.6.12.sun

KOTOで遊ぼ!

~音楽ワークショップ・アーティストを迎えて~

日時 2022年6月12日(日) 13:30開場/14:00開演

会場 大和市文化創造拠点 シリウス
やまと芸術文化ホール サブホール

コンセプト

「遊ぶ」

—子供から大人まで、箏の音楽を楽しもう!

プログラム

宮城道雄 —— 三つの遊び より「かくれんば」「汽車ごっこ」
箏独奏: 吉澤延隆

溝入敬三 —— マイクロトーンズ・スタディ
箏独奏: 吉澤延隆

沢井忠夫 —— 鳥のように
箏独奏: 吉澤延隆

箏とセッション「KOTOで遊ぼ!」

箏: 吉澤延隆
音楽ワークショップ: おとみっく(坂本夏樹、桜井しおり)

主催 吉澤延隆箏曲研究所
後援 東海大学教養学部芸術学科音楽学課程

コンサートノート

吉澤延隆

「遊ぶ」をコンセプトに、演奏家の曲解説を挟みながら、子供から大人までが一緒に、箏曲を楽しむコンサート。

プログラムは、箏の音楽に革新的な変革をもたらした箏曲家・宮城道雄(1894-1956)による《三つの遊び》の中から「かくれんぼ」「汽車ごっこ」から始まります。

「もう～いいかい?」「まあだだよ～」のやり取りによる子供の遊び「かくれんぼ」、「スリ爪」を用いて滑車と蒸気を連想させる表現が盛り込まれた「汽車ごっこ」では、SLになりきった子供が遊びまわる様子を思わせます。

2曲目は、コントラバス奏者で作曲家の溝入敬三(1955-)による微分音による音楽《マイクロトーンズ・スタディ》

この微分音とは1オクターブを12等分で調律した場合の半音よりも狭い音程のことです。その狭い音程は、最初“押し手”による単純な昇降から始まります。やがて、コト柱をまたいだ左側の絃も使用しメロディは、より複雑になっていきます。その微分音の響きや調子はずれの様なメロディ、作曲者はその未聴の音楽の心地よさ、面白さを届けるために作曲しました。4つのパートに分かれた曲について作曲者からのノートを転載します。

- 1) 押し手による微分音の昇降練習
- 2) 小さな固まりが空間に散在
- 3) 音の線が空間に散在
- 4) 調子はずれの歌とコーダ

未聴の音楽が、皆様の耳に目に心地よく届きますように。

溝入敬三

《鳥のように》は、上行する印象的なメロディと執拗な同音反復をピアノのように左右の手を使い分けながら演奏します。

初めて取り組んだ10代の時、その難しさと格好良さの両方に憧れを感じ、空を翔ける様な気持ちで夢中になった思い出の1曲です。作曲者の沢井忠夫(1937-1997)は、磨き抜かれたテクニックと音楽性から「現代邦楽の雄」と称えられた箏曲家で、その数多くの作品はそれまでの箏のイメージを変え、多くの人に愛されています。

最後は、この公演タイトルでもあるセッション《KOTOで遊ぼ!》を来場者の皆様と楽しめます!

《春の海》《六段の調》といった箏曲の代表的な音楽を題材に、音楽ワークショップ・アーティスト「おとみっく」の坂本夏樹さん、桜井しおりさんとともに、客席のお客様が舞台上の演奏家と一緒に手拍子や体を動かすなど身体を楽器のように扱って、演奏家と来場者で今回限りの音楽をつくっていきます。

お客様と演奏家の双方向性を試みるこのコンサート。箏の音楽はもちろん、音楽へ参加する喜びや、劇場へ足を運ぶ充実感を得ていただけたら大変嬉しいです。

神奈川公演ゲスト



©Tomoko Hidaki

おとみっく(坂本夏樹、桜井しおり)

2012年結成。イギリスやポルトガルから学んだ最先端の音楽ワークショップを独自の参加型音楽プログラムとして展開する音楽ワークショップ・アーティスト。年齢や言語、障がいの有無を問わず誰もが参加できる音楽ワークショップやコンサートを様々な垣根を越えて開催している。

サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、フィリアホール等、多くの音楽ホールでの公演を実施。また、ロンドン交響楽団やBBC交響楽団等、海外のオーケストラとの共同プロジェクトに参加。現在10名のアーティストが所属し、これまでに約200公演、乳幼児から大人まで、のべ1万人以上がワークショップに参加。

<https://www.otomic-artist.com>

ソニー音楽財団「子ども向けクラシック音楽配信企画を通じた若手演奏家への支援」ワークショップ・コンサート「ベートーヴェンさん こんにちは!」絶賛配信中!

神奈川公演フォーカス・コンポーザー



溝入敬三(作曲)

コントラバス奏者・作曲家。瀬戸内海と棚田を臨む山の上に生まれる。広島大学教育学部附属福山中高等学校、東京藝術大学卒業、文化庁在外研究員としてカリフォルニア大学留学。ダルムシュタット国際音楽研究所『クラニッヒシュタイナー音楽賞』、日本現代音楽協会『競楽』第1位・『第10回朝日現代音楽賞』、『第7回作曲新人賞』。CD『コントラバス颶風』『コントラバス劇場』『語り物音楽傑作選・猫に小判』、著書『こんどうばすのどらの巻』(春秋社刊)。

作品『猫に小判』三味線&オーボエ、『小吉の夢』Cb、『チュニジアの祭』箏X5 他

世界をつなぐ ～フィンランド、オペラ歌手、ダンサーを迎えて～

日時 2022年7月3日(日) 13:30開場/14:00開演

会場 鎌仙会能楽研修所



「橋掛かり」

— 箏、フィンランド、声楽、ダンス、能をつなぐ舞台 —



ユハ T.コスキネン — 天浮橋 十三絃箏のために【2022年世界初演】
箏独奏: 吉澤延隆

ユハ T.コスキネン — 薄氷 十七絃箏のために
十七絃箏独奏: 吉澤延隆
コンテンポラリーダンス: 小林啓子

三木稔 — 竜田の曲
二十絃箏独奏: 吉澤延隆

名倉明子 — さくらはじめてひらく～二十絃箏のために～
二十絃箏独奏: 吉澤延隆

越谷達之助 — 初恋
テノール: 北嶋信也
二十絃箏: 吉澤延隆

中田喜直 — さくら横ちょう
テノール: 北嶋信也
二十絃箏: 吉澤延隆
コンテンポラリーダンス: 小林啓子

R.シュトラウス — モルゲン
テノール: 北嶋信也
二十絃箏: 吉澤延隆

主催 吉澤延隆箏曲研究所
後援 フィンランド大使館
日本・フィンランド新音楽協会
東海大学教養学部芸術学科音楽学課程

コンサートノート

吉澤延隆

“異なる世界と現世をつなぐ”と言われる能舞台の舞台装置「橋掛け」をキーワードに、箏曲家、オペラ歌手、コンテンポラリーダンサーが互いのジャンルの垣根を越え共演します。

また、日本文学に造詣の深いフィンランド人作曲家 ユハ T・コスキネンが日本神話を題材に作曲した現代箏曲の世界初演も含め、古典芸能の代表的な劇場である能舞台から“世界”へ繋がるための新しい魅力を発信します。

フィンランド出身の作曲家、ユハ T・コスキネン氏とは2011年に滞在していたヘルシンキで知り合い、2018年の箏リサイタル～秋の連歌～の際に、秋をテーマにした《薄氷》を作曲してもらいました。それをきっかけに、二人で日本とヨーロッパの文化の要素を結びつけ、新しい箏の音楽をつくるプロジェクトを開始。そのプロジェクトの2曲目として出来上がったのが《天浮橋》です。以下に、彼からのプログラムノートを転載します。

私は、2020年初めに十三絃箏のために《天浮橋》を作曲しました。それは、十七絃箏のための《薄氷》とともに、作曲の大きなサイクルの一つです。この吉澤延隆氏との共同作業によるプロジェクトは、日本とヨーロッパの文化要素が結びつき、新しい視点を開かせます。

《天浮橋》は春の季節に繋がる短い作品です。日本列島を生み出したとされるイザナギとイザナミの神話からヒントを得ています。曲の終わりに進むと、箏奏者は“namida”(涙)と唄います。その涙は、夏の季節につながる次の作曲サイクルを生み出します。

ユハ T.コスキネン、ベルリンにて
(2022年5月22日)

当初は、2020年2月に初演予定だった《天浮橋》、日本の天地創造からインスピレーションを受け作曲された作品で、このコンサートへの“橋掛け”をスタートさせます。

能「龍田」を基に作曲された《薄氷》では、コンテンポラリーダンサーの小林啓子さんによる踊りと共に、コスキネン氏の描いた秋の世界を表現します。また、その能「龍田」で現れる秋の化身・龍田姫のイメージは、続いて演奏する三木稔作曲《竜田の曲》へとつながります。凍りついた川を渡ろうとした僧侶が《薄氷》と例えるなら、“スクイ爪”を多用し激しい秋が描かれた《竜田の曲》は紅葉の下で舞う竜田姫にも例えることができるかもしれません。

《さくらはじめてひらく》からは、季節は春へ。日本古謡「さくらさくら」がモチーフになっており、そのモチーフの断片が見え隠れします。“みわたすかぎり”桜が花開いていくのか、時折、そのモチーフの雰囲気を断ち切る様な別の次元も顔を覗かせます。

テノール歌手の北嶋信也さんを迎えて演奏する《初恋》と《さくら横ちょう》では、過去の恋や憧れに伴う心情を表現し、その儂さは、ジョン・ヘンリー・マッケイ(1864-1933)の詩、リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)による《モルゲン》につながっていきます。感傷的で繊細だけれども、希望と愛に満ちた明日に向かってコンサートを終えます。

東京公演ゲスト



北嶋信也(テノール)

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業、同大学大学院修了。フンボルト大学に留学。二期会オペラ研修所修了。チューリッヒ歌劇場インターナショナル・オペラ・スタジオ修了。同歌劇場公演「海賊」セリーモ役でデビューし、世界初演「ジェズアルド」マドリガル役、「西部の娘」ハリー役など10演目で様々な役で出演。またトーンハレにてZKO公演「騎士オルランド」バスクワーレ役を好演し地元紙で取り上げられた。帰国後、二期会公演「イドメネオ」アルバーチェ役、「後宮からの逃走」ベドリッコ役を好演。二期会会員、東海大学非常勤講師



小林啓子(コンテンポラリーダンス)

幼少よりバレエを始め、ベルギー、ドイツ留学を経て様々なジャンルの舞台で踊る。のちにコンテンポラリーダンスに出会い、第70回全国舞踊コンクール創作舞踊部第1位、文部科学大臣賞、山田五郎賞受賞。その他も国内のコンクールにて上位入賞多数。現在二見一幸主宰 ダンスカンパニーカレイドスコープ所属。ダンサーとして活動しながら振付家として様々な公演にて作品を発表するほか、依頼を受け各地のバレエスタジオにおいてコンテンポラリー指導、WS、コンクール作品振付指導、作品振付を行っている。

東京公演フォーカス・コンポーザー



Photo by Jaakko Kulomaa

ユハ T.コスキネン(作曲)

ユハ T.コスキネン(1972-)は、世界的なアンサンブル、ソリスト、オペラ・カンパニーと共に作品制作を行っているフィンランド人作曲家である。彼のミュージック・シアター・プロジェクトには、パリのプレゾンス・フェスティバル(2017)とフィンランド国立オペラ(2019)での「Ophelia/Tiefsee」、ヘルシンキフェスティバル(2015)でのハンヌ・ヴァーアサネンとのコラボレーションによるモノローグ・オペラ「ルシア」、三島由紀夫の戯曲によるオペラ「サド公爵夫人」(2010)などがある。作品は、これまでに青木涼子(能声楽家)、福士恭子(ピアニスト)、佐藤紀雄(ギター奏者)、八坂公洋(ピアニスト)、吉澤延隆(箏奏者)、アジアンアート・アンサンブル、アンサンブル・ノマドといった日本人音楽家やアンサンブルにも作曲されている。

彼はシベリウス・アカデミー修士課程作曲専攻修了後、リヨン音楽院とIRCAMに学ぶ。カレヴィ・アホ、パーヴォ・ヘイニネン、カイヤ・サーリアホ、フィリップ・マヌリの各氏に師事し、国際ロストラム・ヤング・コンポーザーズ・オブ・ユネesco第2位受賞(1995)、国際ナディア・アンド・リリー・ブーランジエ財団奨学金(2000)、武生国際作曲賞受賞(2004)を得ている。近年では、2016年と2020年に愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻客員教授を務めた。<https://jtkoskinen.net>

栃木公演

大谷石蔵の響き ～とちぎ未来大使を迎えて～

日時 2022年9月23日(金・祝) 14:30開場/15:00開演

会場 大谷石蔵スタジオ be off



「地域創生」 —地元地域の同世代名手と地場石材“大谷石”



三つ橋勾当 — 松竹梅

箏: 吉澤延隆
三絃: 前川智世
尺八: 福田智久山

名倉明子 — さくらはじめてひらく～二十絃箏のための～
二十絃箏: 吉澤延隆

三木稔 — 箏譚詩集第二集《春》Op.56より 芽生え
十七絃箏: 吉澤延隆
コンテンポラリーダンス: 小林啓子

沢井比河流 — 土声
二十絃箏: 吉澤延隆
尺八: 福田智久山

三木稔 — 尺八・箏・三絃のための 夕影の詩
箏: 吉澤延隆
三絃: 前川智世
尺八: 福田智久山
コンテンポラリーダンス: 小林啓子

主催 吉澤延隆箏曲研究所

後援 宇都宮市教育委員会

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程

コンサートノート

吉澤延隆

故郷でのコンサートです。今回の会場は、通常のコンサートホールではなく、あえて「大谷石」が使われた石蔵スタジオを選びました。

宇都宮市の地場石材「大谷石」は、20世紀を代表する建築家のフランク・ロイド・ライト(1867-1959)によって旧帝国ホテルの建築に使用され、世界的に知られている石材でもあります。また、今回の会場の最寄駅である東武宇都宮線「南宇都宮」駅は、その石を運ぶための軌道から始まった駅でもあり、大谷石と宇都宮市の都市設計や産業の結びつきを物語っている地域です。

その歴史と趣きを感じられる大谷石蔵スタジオで、「とちぎ未来大使」を務める箏曲家・前川智世さんと尺八演奏家・福田智久山さんをゲストに迎え、新春の梅、常磐の松、秋の竹林と春から秋へと季節を辿る古典曲《松竹梅》でスタートします。

そして、宇都宮市出身の作曲家で、第4回「宇都宮エスペール賞」受賞者である名倉明子氏による《さくらはじめてひらく》を東京公演に続き、プログラムします。

古代中国で考案された七十二候では、3月25日～29日頃のことを「桜始開(さくらはじめてひらく)」という。この風流な言い回しに惹かれ、ちょうどこの時期に書き始めた本作品のタイトルとした。「桜」と言えば日本古謡《さくらさくら》を思い起こす。この馴染みの歌のメロディをモチーフとし楽曲を構成することを考え、冒頭には逆行形を据えた。全編を通し時折現れる《さくらさくら》の断片に、「和」の感じられる音楽を目指した。

名倉明子

その「さくらさくら」から、同じ春を題材に三木稔(1930-2011)によって作曲された《芽生え》では、コンテンポラリーダンサーの小林啓子さんと共に、その口マンチックな旋律に乗せて、愛おしいものや心の内に起こった感情の芽生えを表現します。

1984年から1987年まで活動していたハードロック・バンド「メフィストフェレス」のギターと作曲を担当していた沢井比河流(1964-)によって作曲された《土声》には、土から生まれた植物を楽器にした箏(桐)と尺八(竹)で交わされる互いの声という意味が込められています。“ロック”的ビートやコード進行を取り入れた箏と尺八の音楽が、この大谷石蔵に、どう響くのでしょうか?

情緒的な尺八の旋律、表拍と裏拍での掛け合いなど、奇を衒う様なことはなく、自然と流れていく《夕影の詩》、箏、三絃、尺八の伝統的なアンサンブル形態に、コンテンポラリーダンスを迎えてフィナーレとなります。

栃木県出身の邦楽家、作曲家、会場となる石蔵スタジオで使用されている同市特産の地場石材「大谷石」にもフォーカスし、栃木の芸術文化と地場産業の両方を合わせて発信するコンサートは終演予定時刻を迎え、お帰りになる皆様を夕暮れ時のほのかな光に包まれた空と、この《夕影の詩》でお見送りいたします。

[参考文献]

橋本優子 編 2017/2018改訂
『石の街 うつのみや 大谷石をめぐる近代建築』
宇都宮美術館

栃木公演ゲスト



前川智世(三絃)

和久文子に師事。東京藝術大学音楽学部 附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部邦楽科・同大学大学院修士課程音楽研究科修了。長谷検校記念第19回くまもと全国邦楽コンクールにて最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。NHK邦楽オーディションに合格。NHK-Eテレ「にっぽんの芸能」に出演。「前川智世 箏・三絃リサイタル」を開催。宇都宮市民賞受賞。宇都宮短期大学・同附属高等學校音楽科非常勤講師を務める他、小・中・高等学校の学校公演、ワークショップ等でも指導を行っている。とちぎ未来大使・日光観光大使・宇都宮愉快市民。



福田智久山(尺八)

人間国宝、山本邦山に師事。現在、二代山本邦山に師事。多くの教育現場にて邦楽の体験授業を展開。2020年にその功績を認められ「第一回大関作新館賞」、また同年に「栃木県文化奨励賞」を受賞。海外公演も多数。2022年とちぎ国体冬季大会閉会式にて自身作曲の「八咫鳥」を演奏。邦山会、山本邦山合奏団、IWASHIYA、邦楽グリスデン所属。日光観光大使、とちぎ未来大使。宇都宮短期大学音楽科邦楽専攻尺八非常勤講師。

小林啓子(コンテンポラリーダンス)

[東京公演ゲスト]に前出

栃木公演フォーカス・コンポーザー



名倉明子(作曲)

宇都宮市生まれ。東京藝術大学大学院修了。第17回現音作曲新人賞、第70回日本音楽コンクール作曲部門第1位、第4回宇都宮エスペール賞、第2回牧野由多可賞作曲コンクール佳作、うつのみや市民賞、栃木県産業協議会芸術文化貢献賞、板橋区民文化優秀賞受賞。近作に、女声合唱とピアノのための《さくらーひるの一》(山形県芸術文化協会委嘱)、《蓮のある風景》による7つの調べ~ヴァイオリンとチェロのために~、《蓮のある風景》(弦楽四重奏)、《書屋の蝶》(三味線ソロ・本條秀慈郎氏委嘱)など。現在、山形大学地域教育文化学部教授。

NOBU-LAB. CONCERT CARAVAN 2022

ノブラボ・コンサート・キャラバン 2022

舞台監督：門脇央知

グラフィックデザイン：小田善久

写真：Hal Poodle

主催：吉澤延隆箏曲研究所